

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社団 洛和会	代表者	矢野一郎	法人・事業所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス変更時の柔軟な受け入れ ・ご利用者のペースにあわせたサービス提供 ・職員間の情報共有と誰でも発言できる環境 ・町内会の行事などの参加
事業所名	洛和小規模多機能サービス西院	管理者	井上由紀子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	2人	0人	0人	1人	0人	2人	0人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	スタッフ全員で決めた改善策を表にまとめ進捗状況を見てもらう	左記の改善計画を実施した。	「常勤全員で話し合ったか」との設問に対し、誰が常勤か分かりにくい」	誰が常勤かも分かるようにして、評価を依頼する。
B. 事業所のしつらえ・環境	目的を明確化した呼び込みボードを設置する。 ベンチの地域解放を継続する。	左記の改善計画を実施した。	「ウェルカムボードが設置されましたね」「雰囲気が上がりましたね」	元々玄関を開放しているが、「解放中。気軽に入館を」と書き添えて行う。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の防災訓練に年一度からでも参加する。	職員体制上、参加できなかった。	「民生に就任以来、担当高齢者が小規模西院を利用中のケースが増えた。浸透してきたと思う」	施設の広報誌を回覧板に加えてもらい、より地域に知って貰えるよう家族と相談する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者本人が住んでいる地域の方を交えた会議を実施した際は運営推進会議で報告する。	左記改善計画を実施した。	「同じ右京区の小規模同士、外出が盛んなほうだと感じた」	近隣小学校からの交流が盛ん。引き続き積極的に受け入れる。
E. 運営推進会議を活かした取組み	「心配事は？」の呼びかけは中止し、相談が自然に出た時、密に対応できるよう専門性を高める。	左記改善計画を実施した。	「独居者のペット問題や5080問題などが議題に出る時もあり有意義だった」	ブログプリントアウトして推進会議に持参し、日頃の様子をより知って貰う。
F. 事業所の防災・災害対策	大地震を想定した防災訓練の研修受講職員が小規模内で伝達。次年度は地域へ伝達する。	職員体勢上、実施出来なかった。	「京都は大規模災害が少なく、いざという時に焦りそう」	大規模災害を想定した伝達講習を行う。